

パートナーシップおかや

No. 26

岡谷市男女共同参画推進市民の会

男女共同参画社会の実現に向けて

岡谷市企画政策部長 岩垂 俊男



4月に企画政策部長に着任し、半年が過ぎようとしています。まだ経験・知識とも浅く、拙い文章ですがお許しいただきたいと思ひます。

「男女共同参画」といふと、真っ先に思ひ浮かぶのは「私作る人。僕食べる人。」という某食品メーカーのCMが問題になったことです。これが昭和50年ですので約40年前のことです。奇しくもこの年は「国際婦人年」として、史上初の世界女性会議が開かれた年でもありました。

この間、男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法などの法整備、男女共同参画基本計画の策定などの国の取り組みに合わせ、長野県や岡谷市でも、男女共同参画社会の実現に向け、様々な取り組みを実施してまいりました。こうした長期間に亘る取り組みもあり、「男女平等」、「男女共同参画」といった意識が、多くの人たちや企業にも定着してきていると思ひますが、実際の現場では、「男女共同参画社会」の実現にあたっては、多くの課題が山積していると感じています。

病院での勤務が長かったので、病院運営をしていく上で感じたことを少し述べてみたいと思ひます。ご承知のとおり、病院は看護師に代表されますが、非常に女性の多い職場です。したがって出産・育児も多く、病院を運営する上で、このことへの対応はとても大切になります。妊娠中や育児休業後の勤務に対する配慮や、産前産後・育児休業中の職員体制の確保がうまくできないと、安心して働ける環境や安定した医療サービスの提供はできません。

入院医療や救急対応など、病院は365日24時間稼働していますので、宿日直・夜勤・緊急呼び出しなど、勤務環境は相当過酷です。このような状況下、短時間労働、宿日直や時間外勤務の免除などの配慮を行うためには、他の職員へ極端なしわ寄せがいかないよう、少し余裕のある職員配置が必要となります。しかしながら一方では医療費の抑制政策により、診療報酬の引き下げなど、経営環境が厳しさを増す中で対応していかなければなりません。医師不足も大きな課題となってきましたが、20～30歳代の医師の3割は女医さんです。過酷な勤務環境を改善するための医療への投資が必要だと思ひます。意識改革を進めるとともに、現場が改善に向かうことが出来るような環境や仕組みの整備が必要だと思ひます。

小・中学生の「力作」ポスター勢揃い！！

「男女共同参画社会づくりポスターコンクール」～審査会が行われ入賞・入選作品が決まりました

今年も市内小・中学生の皆さんから、「男女共同参画社会づくりポスター」が多数(小学生の部51点・中学生の部14点=合計65点)寄せられました。いずれの作品もこの夏休み中に描かれたもので、男女



慎重な審査が進む(9月9日)

共同参画社会づくりの趣旨に沿った絵柄や文言が、豊かな色使いと瑞々しいタッチで描かれた力作揃いとなりました。

この65点の応募作品の中から、最優秀賞はじめ入賞・入選作品を選ぶ「ポスターコンクール審査会」が、9月9日、市役所大会議室で開かれ、計14点(小学生の部9点、中学生の部5点)が選定されました。審査会は、7名の審査員(岩本教育長=審査委員長、岡谷市、市内小・中学校の先生方、男女共同参画審議会会長、市民の会副会長)で進められましたが、甲乙付けがたい作品群を前に何度も協議を重ねられ慎重に審査されていました。

入賞、入選者の表彰および作品の展示は、10月2日(日)にカノラホールで開かれる「岡谷市男女共同参画市民のつどい」の中で行われます。また、11月にはイルプラザカルチャーセンターに、応募作品全点を展示し、多くの市民の皆さんに見ていただくことになっています。

小学生低学年から「人権」「男女共同参画」「キャリア形成」の意識を養って欲しい…

子ども(小学生低学年)向け「男女共同参画かるた」完成!!

昨年度から継続して制作に取り組んできた、子ども(小学生低学年)向け「男女共同参画かるた」が、岡谷市(企画課)および市内全7小学校(先生・児童の皆さん)の全面的なご協力をいただき、9月16日、完成の運びとなりました。〈完成した「かるた(絵札)」=特集ページ①をご覧ください〉

ここに、「男女共同参画かるた」制作の経過を振り返るとともに、これを機に、私たち「市民の会」は、活動の原点を再確認し、その幅をさらに大きく広げる努力を続けて参りたいものです。

..「かるた制作」に込めた私たちの願い 思い..

- 「人権(男女平等)」、「男女共同参画」の意識啓発は、幼少期からなされるのが理想的である。
- 幼少期の子どもたちの意識啓発は、遊びを通じて自然な形で呼び掛けが出来る「かるた」を媒体とするのが相応しい。「かるた遊び」を通じて、楽しみながら「人権(男女平等)」、「男女共同参画」「キャリア形成」の意識を学び、それを高めながら両親や家族・地域にも広げていって欲しい。
- 「かるた」は、小学生高学年(5年生)向けまんが冊子『わたしらしくあなたらしく』(平成21年3月制作)の「小学生低学年向けの姉妹版」として制作する。

..「かるた制作」の経過を振り返ってみました..

- 昨年(平成27年)度、小井川小学校から、「読み札文言44点」が寄せられました。これは、伊藤恵子先生(平成26年度まで同校校長、平成25年度「男女共同参画おかやプランV」策定検討委員)のご配慮と、市民の会・小池会長の熱意により実現したものでした。
- 昨年度後半、市民の会メンバー全員で、「読み札文言」作成に着手しました。「ひらがな50音表」の各行の5文字を分担し合い、3月末までに、「44点プラスα」が出来上がりました。
- 今年度(平成28年度)に入り、改めて市民の会メンバーが作った「44点プラスα」を吟味してみると、「男女共同参画」「人権教育」「キャリア教育」の視点が程よく織り込まれてはいるものの、こども(小学生低学年)向けには難解なものもあることが気になってきました。
- そこで、市内全7小学校の高学年の皆さんにも「読み札文言」を作っていただくこととし、教育委員会を通じて「校長会」にこの旨を依頼、快諾を頂くことが出来ました(5月)。
- 6月末までに、市内全7小学校の高学年の皆さんから、「人権(平等)」や「男女共同参画」をテーマに219点の応募をいただきました。
- この応募作品219点と、昨年度末までに作成・ストックしてあった、小井川小学校からの44点、市民の会が作った「44点プラスα」を同格・同列に置いて「読み札文言選定会」を開催(7月6日)、最終的に44点を選定しました。
この選定会には、3人の校長先生(岡谷田中小・横内宏行先生、長地小・横林智子先生、湊小・酒井重明先生)にご出席いただき、審査していただきました。
- 続いて、文言に相応しい絵柄(イラスト)の制作を、市内7小学校全校に分担依頼しました。これについても、全校から協力いただけ、7月末までに、子どもさんらしい瑞々しさにあふれた好感のもてる作品を寄せていただきました。
- これらの絵柄(イラスト)は、グラフィック・デザイナー・小平陽子さん(岡谷市在住)の手で「必要に応じた修正」が加えられ、8月末までに「絵札44点」がほぼ完成しました。
- 8月31日に開催された市民の会第5回定例会の席上でこれらを確認。若干の微修正が加えられた上で、「読み札」とともに最終的に完成をみる事が出来ました(9月16日)。



読み札文言選定会(7月6日)

..「男女共同参画かるた」の今後について..

- かるたは400セット作られ、岡谷市内全小学校の全クラスに配布されました(9月20日)。早速、「かるた会」が開かれています。9月21日には、長地小学校の「放課後居場所づくり事業」の中で、また、9月23日には、岡谷田中小学校5年生の「正規の授業(総合学習)」の中で行われました。
- 10月2日開催の「男女共同参画おかや市民のつどい」の中で、広くお披露目されます。
- 一部(50セットほど)は市が保管し、子どもが集まる場所等で利用を希望する市民の皆さんに貸し出されることになっています。

「平成28年度 男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」が開催されました

主催：内閣府男女共同参画局 キッチフレーズ：「意識をカイカク。男女でサンカク。社会をヘンカク」

日時：平成28年6月27日(月)13:00～16:00 会場：東京国際フォーラム(東京都千代田区)

参加：全国より900人以上(内閣府発表)参加。内、岡谷市からは12人参加

内容：第一部 ①主催者あいさつ兼基調講演Ⅰ＝内閣府特命担当大臣・加藤勝信氏 ②特別応援メッセージ＝青山学院大学陸上競技部監督・原晋氏 ③基調講演Ⅱ「誰もが活躍できる社会を目指して」＝前厚生労働省事務次官・村木厚子さん ④取組事例発表「多様な働き方による女性の活躍推進」＝活躍されている女性3人による事例発表(3件)

第二部 ⑤パネルディスカッション「多様性とICTが女性の活躍を後押しする」＝パネリスト4名による討論

注記：この全国会議は、1999(平成11)年6月、「男女共同参画社会基本法」施行とともに、男女共同参画週間が設けられましたが、この週間中の事業として毎年開催されています。



岡谷市から参加された皆さん

「全国会議」に参加された方から、感想をいただきました(順不同)

○不遇な中でも、心を強く持ち続けられた村木厚子さんの講演は、重く心に響くものがありました。

女性が就業を継続する上で、日本には、「社会制度・仕組み」と「個人の心・心理」の両面に、様々な制約や拘りが、固い岩盤のようにあることを豊富なデータに基づき解説されました。また、女性にとって「子どもを持ちながら働き続けるためには何が必要か(アンケート調査)」について、「①子育てしながら働き続けられる制度や職場環境 ②勤務時間が柔軟であること ③残業があまり多くないこと」に加えて、「④長期的に安定した継続雇用 ⑤やりがいを感じられる仕事の内容」と答える女性が増えてきていることをお聞きして、日本の将来に明るいものを感じる事が出来ました。

現在、会社や組織の「トップ」を自認している人には、「ワーク・ライフ・バランスの取組みや、フレックスタイム制度等を導入し、子育て中の女性にとっても働きやすい職場環境へと脱皮を図った企業は、一定期間後には、生産性の大きな向上が認められる。」との村木さんの指摘(総括)を信じていただいて、「ひとり一人の意見や気持ちに耳を傾けつつ、断固たる姿勢で企業風土・制度の改革刷新に努めていって欲しい」と強く感じました。(岡谷市連合婦人会・匿名希望・談)

○原晋氏の「特別応援メッセージ」では、4つのC(①チャンス ②チェンジ ③チャレンジ ④クリエイション)が話されましたが、それぞれ示唆に富むものでした。原監督は、ご自身の奥様のことを「支援者(原監督を背後から支援し支えてくれる人)」と捉えるのではなく、「同志である」と捉え、役割を分担して、学生(選手)たちに対応している、と話されました。女性には、もっとチャンスが与えられるべきであり、女性は果敢にチャレンジして欲しいとも強調されました。また、若い学生(選手)の監督である自らに対しては、「常に意識の変革が必要であり、創造性を発揮して、皆と渡り合い闘いたい。あらゆる場面や事象をチャンスと受け止めていきたい」と闘志を燃やされることも忘れませんでした。多くの人の心に届く、メッセージであったと思います。(市民の会・山口 俊雄)

○パネルディスカッション「(テーマ)多様性とICTが女性の活躍を後押しする」＝登場されたパネリスト4人の話をじっくり聞かせてもらいましたが、「女性の活躍を後押しする」ということよりも、「男女に関係なく、働き方や人材活用の『多様化』を進める提案」というように受け止めました。

そのための方策として、①テレワークの導入促進 ②今後は海外の拠点や人材を広く活用して、情報交換しながら事業展開を図る必要性が益々高まってきている。早く男女の括りから脱却し、LGBTの視点で、働く環境を作り変えていく必要がある。③男女という視点を超えて、「個のポテンシャルを引き出し、伸ばす」ことが経営戦略として肝要になっている、と整理することが出来ました。

感想として、この方策3点は究極の「ありたい姿」であるとは理解できるものの、一歩引いて足元の実態を見据え、じっくり取り組むべき課題であると思いました。(市民の会・山口 俊雄)

「パネル展示」と「街頭啓発活動(P.T.ペーパーの配布)」を行いました

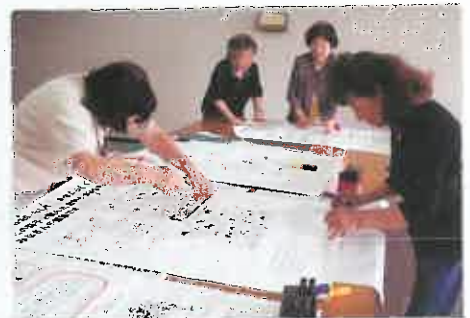
私たち「市民の会」は、男女共同参画週間(6月23日~29日)中に、イルフプラザ催事場を会場に「パネル展示」を行いました。私たちが、昨年度中に取組んだ「活動の様子を記録した写真と説明文(パネル化)」と岡谷市内の小・中学生から寄せられた「男女共同参画を意識したポスター(27年度ポスターコンクール入賞作品)」を展示、市民の皆さんに「男女共同参画週間」の趣旨・意義をPRしました。

パネル展示会場には、期間中、市民の会会員が当番で常駐、展示物についての質問にお応えするとともに、「市民の会」の活動内容などについても説明し、ご意見をお聞かせいただくなど、交流を図ることが出来ました。



イルフプラザ玄関前にて声掛け手渡し

高校生や若い男女の皆さん)に声掛けしながら配布しました(写真左)。また、期間を通して、パネル展示会場に来られた方々にもお渡しし、週間のPRをしながら計500袋全てを配布することが出来ました。



展示物作成に余念がない

157人の市民の皆様が来場され、何らかの会話を交わすことが出来、私たちの今後の活動の糧となるご意見・感想等をいただくことも出来ました。

なお、週間初日の6月23日(木)午後、イルフプラザ玄関前と岡谷駅頭にて「男女共同参画推進啓発ポケット・ティッシュ・ペーパー(市で500袋用意)」を、市民の皆さん(岡谷駅前では、帰宅する

**おめでとうございます
小池会長、県より表彰される**

長野県では、各分野で尽力され、顕著な功績を挙げておられる方々を表彰することが行われていますが、この度(6月13日)、小池喜代会長(市民の会)は、「男女共同参画功労者」として、県知事表彰を受けられました。

小池会長は、40年にわたり新潟県、長野県(下伊那・諏訪)の小中学校で教鞭をとられた後、平成10年から6年間、長野県男女共同参画センターで専門員としてご活躍され、平成16年からは、岡谷市および長野県の男女共同参画推進のために、心血を注いでこられました。この間、審議会会長、市民の会会長、長野県共同参画をめざす会会長、県民会議会長、長野県男女共同参画審議会委員、国際女性教育振興会理事などを歴任されるとともに、欧州諸国に趣き、男女共同参画の先進事例を視察されるなど、精力的に男女共同参画の啓発活動を続けておられます。

**「らいてうの家」開館10周年
記念シンポジウムに参加しました**

女性解放や平和運動に尽力した平塚らいてうを顕彰する「らいてうの家」(上田市)が、開館10周年を迎えたのに合わせて、「地域に根ざし平和とくらしを守る」をテーマに、「記念シンポジウム」が上田市の真田中央公民館で開かれました(8月28日)。

このシンポジウムのパネリストの一人「おひとりさまの生き方」を追究されているフェミニズムの旗手・上野千鶴子さん(社会学者)のお話が聞きたくて上田まで行ってきました。

まず、上野さんは持論を展開されました。

- 長く生きると、誰もが「おひとりさま」になる。○誰もが安心して弱者(おひとりさま)になれる社会にしていきたい。○新しいコミュニティは、各人の目的で出逢いが生まれる「選択縁の社会」としたい。○居場所づくりは、「コミュニティ・カフェ(=縁側、茶の間)」、そこは、集まる理由や口実はいらない、何もしなくてよい、そこに来ただけでよい。そういう場所である。

その上で、高齢者の「意思決定の支援をしよう」と説かれました。

- 家族の迷惑にならないのなら、「家に居たいという思い」は高齢者の悲願である。○高齢者は、施設・病院に入るなどして「家族に迷惑を掛けたくない」と思うものである。○だから、高齢者本人の気持ちを聞き出し、高齢者が「意思決定」する支援をしてあげることが大切になる。○私たちは、自分の運命は自分で決めるという気概を持ちたいものだ。○今後は、これら活動のバトンを次の世代に渡していくことを考えていきましょう。

シンポジウムは、上野千鶴子さんのお話の他に、古田睦美さん(長野大学環境ツーリズム学部長)、米田佐代子さん(らいてうの家館長・女性史研究者)の実践に基づくお話がありました。(小口光子)

・男女共同参画おかや市民のつどい・

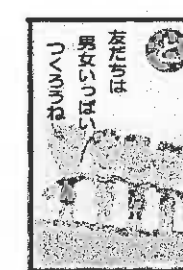
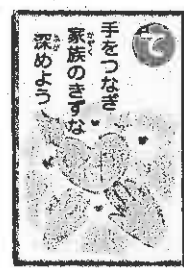
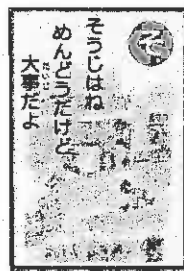
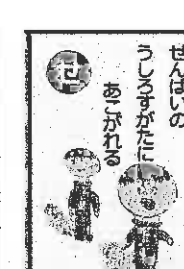
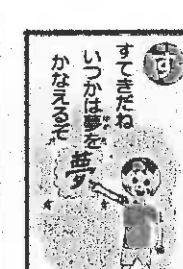
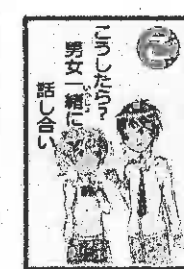
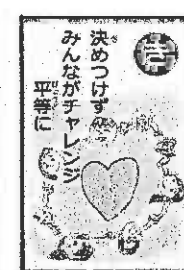
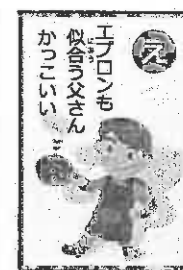
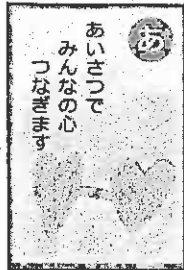
〜子どもとともに学ぶ、男女共同参画、協働の地域づくり〜

日時: 10月2日(日)午後1時~3時30分(開場0時30分) 場所: カノラホール(小ホール)

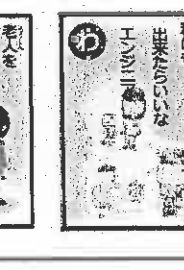
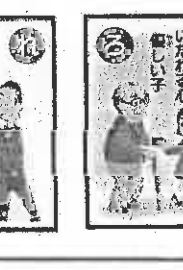
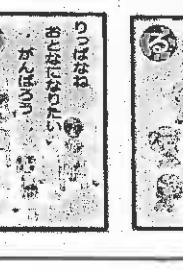
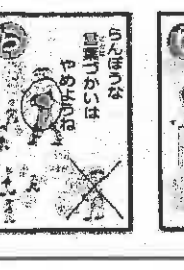
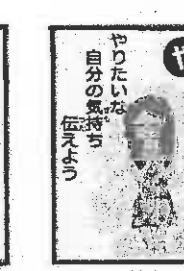
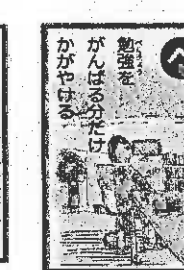
内容: 第1部 ○小・中学生「男女共同参画社会づくりポスターコンクール表彰式」

○小学生とともに作った「男女共同参画かるた」の発表

第2部 講演「一人ひとりの個性を大切に地域づくり」講師: 内山二郎さん(ジャーナリスト)



市内7小学校の児童が
ことば、挿絵を作りました。



報告

子育て中のお母さんへのアンケート(その2) (平成28年5月～6月調査)

女性の社会進出が進む一方、3歳未満児の「保育ニーズ」が高まってきており、とくに首都圏・大都市圏では、いわゆる「保育園等への入園待機児童」の問題が大きくクローズアップされています。岡谷市の「3歳未満児保育ニーズ」も年々高まっており、昨年度は1日あたり232人に利用されています。

岡谷市は、5年毎に「市民のニーズ調査」をおこない、未満児保育が実施できる認可保育園を16園(市立14園、私立2園)準備し、1日あたり「計240人」まで利用可能な体制を整えています。来年2019年度のニーズは「237人/1日」と見込まれ、受入れ可能人数上では「入園待機児童」を発生させない努力がなされています。

そこで、私たち「市民の会」は、市立保育園14園のご協力をいただき、未満児保育を利用されているお母さんに、ご自身の就労状況やご意見等を聞くアンケートを行い、110人から回答をお寄せいただきました。

結果をみると、今後、私たち「市民の会」が心して取り組むべき課題が数多く示唆・提起されているようです。

●アンケートに答えていただいたお母さん(市立保育園の未満児保育を利用している) 110人

- ①年代構成：20歳代(13人=11.8%)、30歳代(79人=71.8%)、40歳代(18人=16.4%)
- ②子どもさんの人数：3人以上(29人=26.4%)、2人(47人=42.7%)、1人(34人=30.9%)
- ③家族構成：親と同居(29人=26.4%)、核家族(81人=73.6%)、ひとり親(8人=7.3%)

●未満児保育を利用している母親の就労状況

会社員	正規	出産前	55.5%	・会社員は、出産後に1年程度の育児休業を取り、正社員として働き続けることが多い。 ・育児休業制度が整っている公務員は、出産後も正規職員として働き続けることが多いが、育児休業を3年取る人は多くない。 ・出産後に、非正規社員やパート・アルバイト社員に変わる人が多い。 ・自宅で自営、起業している人は、出産後も働き続けることが多い。 ・出産前は専業主婦だったが、経済的な理由で出産後に働き始めた人がいると思われる。
		現在	41.8%	
非正規	出産前	1.8%		
	現在	2.7%		
公務員	正規	出産前	13.6%	
		現在	11.8%	
非正規	出産前	1.8%		
	現在	3.6%		
契約社員・派遣社員	出産前	出産前	3.6%	
		現在	0.9%	
パート・アルバイト	出産前	出産前	14.5%	
		現在	34.5%	
自営業	出産前	出産前	3.6%	
		現在	3.6%	
専業主婦	出産前	出産前	5.5%	
		現在	0.9%	

●未満児保育を利用している母親の各種制度利用状況

- ①育児休業について：制度がある(77.0%) 育児休業を取得した(73.0%)
- ②子どものために休暇が取れる(85.7%) ③残業の軽減がある(80.0%)

注) 育児休業制度のある事業所は多いが、非正規社員は対象外になっている実態もある。

●アンケートに答えていただいたお母さんから寄せられた主な意見

- ①未満児を保育園に預けて母親が外で働くのは、「子どもが可哀そうだ」と一部で言われているが、そうしないと生活が立ち行かない。女性への就労サポートがもっと広がることを期待する。
- ②育児休業中は社会的なつながりを感じにくい、仕事をしていると感じることが出来る。
- ③パート社員には育児休業がないので、出産時に仕事を辞めざるを得ない。一方、パート勤務でなければ、子どものために休暇が取りにくく、育児中は責任の重い仕事には就きにくい。
- ④妊娠・出産を理由に解雇を迫られた人をたくさん見ている。また、周りの目も気になる。
- ⑤夫(父=男性)が働き盛りになると、子育ては妻(母=女性)の負担が重くなる。父親(男性)の働き方についても考慮された制度(社会的合意)を作って欲しい。
- ⑥育児休業制度が整っているということだけではなく、守られているかをチェックする制度も必要。
- ⑦働けることはありがたいが、非正規なので、将来の不安がある。
- ⑧中小企業では、働きながら出産・育児をするのは難しい。支援などの拡大を望みたい。
- ⑨女性が働きやすい環境として、保育について制度は勿論であるが長期的サポートが欲しい。